

## 閉会のあいさつ

著者	木部 暢子
図書名	近代の日本語はこうしてできた : 国立国語研究所 第7回NINJALフォーラム
ページ	66-66
発行年	2014-07-31
シリーズ	NINJALフォーラムシリーズ ; 5
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00000932">http://doi.org/10.15084/00000932</a>

本日は長い時間どうもありがとうございました。第七回NINJALフォーラム「近代の日本語はこうしてできた」をお楽しみいただけましたでしょうか。

現在、私たちは当たり前のように標準語を使ったり、話しことはを使ったり、書きことはで文章を書いたりしています。それがたった二〇年ほど前、非常に大きな流れのなかで模索しながらできあがってきたことを、感じた次第です。

本日のフォーラムの内容は、文字化して冊子にすると同時に国立国語研究所のホームページにアップする予定です。また、これまで六回行いましたフォーラムの内容も、国立国語研究所のホームページでみるができますので、よろしかったらぜひご覧ください。

次回の宣伝ですが、本日のフォーラムでも、近代語にとつて漢字、漢語がとて大きな意味、役割を持っているという話でしたが、次回は「世界の漢字教育」というテーマで、九月二一日(日)にこの場所、一橋講堂で開催する予定です。日本語を学ぶ世界の方々が漢字をどうとらえているか、漢字教育はどうあるべきかが主なテーマとなります。次回もぜひお越しください。

本日は足元のお悪い中、ありがとうございました。今後ともよろしく願っています。

